

第4回例会

一般質問から



会派清新  
柴田 文男

國學院大學北海道短期大学部に  
ついて

**質問** ここ数年入学者が定員を超過しており、まちの活性化に大いに役立っていると考えますが、市はどのように捉えているか。

また、大学として将来の短大経営についてどのように見通しているか。将来の課題について伺う。

**答弁** 直近の平成27年国政調査によると、19歳・20歳の人口660人のうち短大生の占める割合は、5割を超え348人にのぼり、学生によるにぎわいや経済効果など、地域に大きな恩恵をもたらしています。

一方で、国は東京23区内の大規模大学を対象に入学生員の厳格化を進めており、短大の大きな魅力である編入学の受け入れ枠の維持が困難になるとの予測もあり、短

大側では道外のみならず道内からの入学者の拡大が今後の短大存続の生命線と位置づけており、特に、幼児保育コースについては、人材養成に向け、地域からの入学者の確保が喫緊の課題であると伺っています。

市としても、まちづくりの核の一つである短大の存続に向け、市全体で短大を支援していく環境を作っていきます。

水道法の改正について

**質問** 水道法が改正され、水道の広域化の推進とともに水道の民営化が認められた。水道の民営化に対する市長の基本的考えを伺う。

**答弁** 一般の水道法の制度設計は、完全民営化ではなく、自治体が施設を保有しつつ、運営権を委譲するコンセッション方式です。

現在、総務省の水道のあり方に関する研究会により、財政支援を含めた詳細な制度設計について議論が進められており、安全で安心な水を、安定して安価に提供することを基本に据え、今後の動向を注視しながら、水道企業団と連携し情報収集に努めます。



公明党  
三上 裕久

中心市街地の再生について

**質問** 栄町3―3地区の再開発事業が完了し、今後どのように中心市街地を活性化させていくのか。

また、特産品・農産物を販売するマルシェの進捗状況と今後の展開について伺う。

**答弁** 現在、まちづくり会社と今後の展開について検討を進めていますが、具体案を示すまでには至っていません。

このことについては、喫緊の課題であることは認識しており民間事業者の協力を得ながら進めていきます。

また、滝川版マルシェについては、平成29年に設置されました検討特別委員会、先進地を視察し、既存物件の利用、簡易的な建物の建設など具体的な実施方法などを協議してきました。

30年度末までに方向性が示されることから市としての担うべき役割を検討していきます。

観光DMOについて

**質問** DMO設立に向けての現状と可能性について伺う。

**答弁** 滝川砂川着地型観光推進協議会を設置し、観光客のニーズ把握、モデルコースの策定、滝川砂川プレミアム旅行周遊券の販売など行っています。この滝川、砂川の着地型観光を進める中で広域連携の観光へと広がるよう他市町へも参加を呼びかけていきます。

風しん対策について

**質問** 予防接種や抗体検査の費用助成の拡大について伺う。

**答弁** 厚生労働省から2次補正および抗体検査、ワクチン接種の無料化の方針が示されました。本市としては、これを受け、今後示されるであろう事務手続きに関するガイドラインのつとり、普及啓発に努めていきたいと考えています。具体的には、39歳から56歳の男性に接種を受けていただき、より抗体率を高めるため、市の広報やホームページ、対象者への個別通知などの周知を徹底したいと考えています。